

第6回行政改革推進委員会 会議要約

- 日 時 平成28年1月6日(水) 午後3時30分～午後5時00分
- 会 場 村上市役所 第5会議室
- 出席者 行政改革推進委員会委員 7名
総務課長、総務課参事、人事管理室 3名

(午後3:30開会)

1 開 会

2 会長挨拶

会長

皆さん、明けましておめでとうございます。

今回は第6回目の委員会でありまして答申を予定しています。

前回のヒアリングの内容を踏まえて、答申内容を協議していただきたいと思います。

皆様方のご意見を平成28年度の市政に反映させていただければと考えていますので、よろしくお願ひします。

3 協 議

(1) 村上市行政評価制度における事務事業の評価の答申案について

【資料No.1】を事務局が説明

会長

何かご意見、ご質問はありますか。

委員

このたびの答申は、答申の添書と別紙の評価シートにより行うということによろしいでしょうか。

会長

事務局がまとめた内容に間違いはないか、委員の評価とずれがないか、文言に誤りはないかを確認してください。

委員

住宅リフォーム事業経費の中で、「地域経済の活性化」という表現があるが、相当の予算を投じないと地域経済の活性化には繋がらないと思います。今年度の予算は3,000万円だが、地域の活性化を本格的に取り組むのであれば、新築を対象にすることや補助上限額の増額、申請者が全て補助を受けられるよう予算を拡充することなど、アンダーラインを用いて強調する表現のほうが良いと思います。

事務局

結論欄の「申請者が全て補助を受けられる程度に予算を投入する必要がある。」「補助上限額を今以上に高く設定すること、新築も対象とすること」「空き家の撤去も対象とすること」の3箇所アンダーラインを引くということで良いでしょうか。

(異議なし)

会長

地域おこし推進事業経費はいかがですか。

委員

結論欄の「募集目的の明確化、募集地域の情報等を掲載するなど要項を充実して夫婦などの募集等、先駆地を参考にして事業を拡充し、更に隊員を増員するべきである。」をアンダーラインで強調したほうが良いと思います。

会長

よろしいでしょうか。

(異議なし)

会長

答申文の「効率、効果的な」という表現を「効率的かつ効果的な」に改めたほうが良いと思います。よろしいでしょうか。

(異議なし)

会長

他にないようであれば、文書を訂正し答申に移りたいと思います。

(休憩)

4 答 申

村上市行政評価制度における事務事業の評価について（答申）

会長

答申文を朗読し市長へ答申

市長

明けましておめでとうございます。

皆様、お忙しい中、我々の行政改革の推進のために御力添えを賜りありがとうございます。

合併後、いろいろな施策を進める中で、厳しいご指摘を真摯に受け止めながら、これまでも進めてきた

つもりでいます。しかし、期待に応えるだけの効果を上げているのかという部分もあります。日々、我々職員はそのことに意を持ちながら職務に従事しています。

更にご指摘をしていただけたところがあれば、私たちが取り組む方向性、姿勢のあり方が良いのか、悪いのか、大きな指標として判断できると思っています。

このたびは、いくつかの施策について評価をいただいておりますが、我々は常にベストの状態だということで取組んでいます。しかし、我々の尺度でのベストであり、皆様の尺度と違いがあると思えますし、それが市民の考え方なのだろうと思っております。それを代表していただいている皆様方から頂いたご意見については、しっかりとこれからの施策の中に織り込みながら努めて行きたいと思っております。64,000の考え方があるわけですが、それを一つの方向に向いて頂きながら、我々がここに住んで豊かな気持ちで、これからの人生を歩めるようなまちづくりにするため、大変ではあります、大変さにかまけることなく、前向きに取り組を進めたいと思っております。

本日の答申は、これらのことを盛込んだものだと思っておりますので、しっかりと答申を踏まえて、全ての職員が共有できるような仕組みを取り入れながら、頂いたご意見を形にしていきたいと思っております。

また、これからもいろいろな場面で、皆様方からはご指導、御力添えを賜ることになると思いますが、よろしくお願ひし申し上げ御礼とさせていただきます。

大変ありがとうございました。

5. その他

会長

せっかくの機会ですので、市長との意見交換を行いたいと思っております。

ただ今は、答申に対する市長の考え方をお聞きし、ありがとうございました。

村上市民64,000人が幸せに暮らせるという、市長がいつも念頭におかれている考え方とおおり、我々も諮問機関として、皆さんが幸せに暮らせるように「地域活性化」ということが答申文に入っています。

村上市が元気にならなければいけないという希望が根底にある中で審議させていただいておりますので、重く受け止めていただきたいと思います。

市長

そのとおりだと思います。

村上市は広い市域を持っています。私は広域行政の経験がありますから、合併前の旧市町村を承知しております。教育委員会では全ての小中学校を歩かせていただきましたので、どこにどのような公共施設があるかわかります。平成20年の合併当時は人口70,000人でありましたが、集落、町内で一つひとつ課題が違う中、何とかしたいという思いで今まで来ました。そうした中で、ベストと思いついて進めていることが行政のベストであって、市民一人ひとりと向き合った中でのベストであったのかということのを常に考えていかなければならないと思っております。

委員の皆様方も、考え方は一人ひとり違うところにあると思えますし、その辺はしっかりと議論させていただきまして、これからも進めて行きたいと思っております。

就任後、皆様方といろいろな場面でお会いし活躍している姿をみると、皆様方が市民一人ひとりに対する強い気持ちがあるということを感じます。

64,000同時には出来ませんが、それぞれの役割の中で、一人ひとりに合った、一人ひとりに向き合うことが大切だと思っておりますし、職員にもそのように話はしていますので、支えていただければありがたいと思っております。

会長

せっかくの機会ですので、市長に対して皆さんが常に思っていることがありましたら話していただきたいと思います。

市長は行政マンではありますが、広域事務組合も歴任されておりますので、地域的なことやそれぞれの事情も承知されていると思いますので、大滝前市長と高橋市長の感覚は違うと思いますし、非常に期待しています。村上市は面積も広くそれぞれの文化、歴史的な背景も違いがあり、考え方も様々です。それぞれ自分の地域が大切で、一極集中にならないようお願いしたいと思います。

市長

私は、旧村上市に生まれ育ち、おしゃぎりのある町内で祭りにも参加しています。中心部で生活しているのかもしれませんが、その部分はあまり色濃く出ていないと思っており、よその地区を受け入れないということはない人間だと思っています。これが広域行政に携わった経験によってもたらされたものだと思っています。

広域行政は、岩船広域圏が一つですので、村上や荒川、山北と言っても構成団体のひとつということがありました。それぞれの地区でふるさとを愛して誇りに思う気持ちは大切だと思いますが、それによってよその地区と競争を始めるとだめになると思っていますので、64,000人が一丸となって地区にこだわらず取組みを進めたいと思います。

これまでは、「地区ごとにどう」という7~8年だったと思いますが、これまでの垣根を取り払って、これから合併した村上市が一つになってやっていくということです。ある地区に特化した事業がある時には、その地区を元気にするために他の地区は我慢をしてでも力を注いで応援してもらいということなど、合併から8年を経過し、第2次総合計画を策定していく平成28年度はその基盤づくりの年になると思いますので、地区ごとで課題は別々ですが差別化する必要はなく、どの人格も同じ人格として見ていかなければならないと思いますので、地区の枠組みを壊す仕組みを考えています。

会長

広域的な物事の考え方が出来る市長なので、非常に期待していますし応援もしています。皆さんはいかがですか。

委員

市長のふれあいトークの中で人口減少問題への対策として、若い人達の働ける事業所の確保を挙げましたが、既存の企業の拡充、充実も大切ですが、新たな事業所の確保ということで企業誘致については昔から言われてきたことですが、難しいことだと思います。現在、村上市としてはどのような活動をしているのかお聞きしたい。

市長

企業誘致そのものは商工観光課で行っていますが、進出希望の企業があった場合に、提供できる場所が無いというのが実態です。求められる用地と提供できる用地がマッチングしないという問題がありますので、そこを何とかしなければなりません。また、実際に拡張には至っていませんが、拡張したいと思っている事業体は沢山ありますし、企業支援の施策も打ち出し始めていますので、それを活用して広げていきたいと考えています。

ここに定着してもらいたいと考えていますが、新卒者やUターン者の希望と、企業の業種とがマッチングしないという問題もあり、子どもたちが自分の職業を選択するとき、「この仕事はしたくない。」というように、需要と供給のバランスが崩れています。

また、一番感じていることは、市長が先頭になって企業へのアプローチを行うことで良い感触を受けています。今後、力を貸していただけるのではないかと思うのが、東京と関西の県人会で、東京には村上市郷友会、関西には越後村上会があり、この力が大きいと感じています。シャープの会長が新潟の佐藤会長に代わりましたのでご挨拶をさせていただきましたが、非常に感触が良く、市長が動くということが良いことだと思っていますので、平成28年度も取り組みを進めたいと思います。

委員

高校の同窓会の役員をやっていたことがあり、関東支部の総会を東京で開催したことがありましたが、事業者や事業所幹部のOBなど大勢出席していました。こういう人達を通じて企業誘致が出来ないものかと思ったことがありますので、同窓会の総会などに出席して、顔を繋ぐことも一つの方法ではないでしょうか。

市長

高校の同窓会のお誘いは受けていますので出席しようと思っています。いろいろな業界で活躍されている方が大勢いますので、大きな見方になると思います。

会長

トップセールスが一番大切だと思いますし、市長がそれを感じていると思います。

村上地区の有効求人倍率は県内でも高くなっているが、求人と求職がマッチングしないので、若者がその職業を選択するような魅力のある企業が大切になってくる。

市長

農業に従事する若者の対談の中で、地域おこし協力隊も参加していましたが、「学生の時に農業を体験し、体験することにより将来の自分の職業の選択肢として考えられるようになった。」と言っていました。キャリアスタートウイークのあり方について、どれだけ効果があるのか確信が持てなかったが、若い人の話を聞くと、こういう経験が大切だと感じましたので今後も取り組みを進めたいと思います。

農林水産業に若い人が入ってくれば良いと思っていますので、その辺も取り組んでいきたいと思っています。

会長

それでは、時間になりましたので市長との意見交換を終了します。

会長代行

委員の皆様、2年間ありがとうございました。

年明けしましたが、雪がない年で少し寂しい部分もありますが、過ごしやすいのではないかと思います。

今回、答申をさせていただき、「効率的、効果的」という言葉がありましたが、「効率的」がすべてではないと感じました。「効率的」なことだけを考えていくと、人員が削減されることにもなりますが、効率的で効果的なものを作り出すには人員も必要になると思いますので、今後も村上市全体で人を育てていく

囲気を作っていくことが大切だと感じました。

委員会は今回で終了しますが、来年度以降も皆さんで協力しながら村上市を発展させていただきたいと思えます。

本日は、誠にありがとうございました。

6 閉 会

(午後5：00閉会)

以上、第6回行政改革推進委員会会議要約の内容が、正確であることを証明するため、ここに署名する。

平成28年1月22日

会 長 松 本 豊 印